

平成 26 年度第 1 回東浦町子ども読書活動推進会議議事録

日 時 平成 26 年 6 月 18 日（水） 13：30～15：00

場 所 東浦町中央図書館小会議室

出席者 青木美奈子、奥田英子、鈴木順子、恒川里美、松下玲子、高畑仁美、
苅谷ひろみ、仲川貴子、伊藤世志子

事務局 稲葉教育長、長坂教育部長、
成田図書館長、水野館長補佐、万徳図書館指導員

傍聴者 なし

開会

1 あいさつ

- (1) 委員長あいさつ
- (2) 教育長あいさつ

2 自己紹介

3 議題

- (1) (1) 平成 26 年度実施計画について

事務局 資料について説明

教育長 リーフレット「読書のすすめ！」の配布先は、幼保小中のみであるが、高等学校なども含め多方面に配布すべきではないか。むしろ一般の方にも知っていただく必要があるのではないか。年代別に対象を絞って作成するのもよいのではないか。かつて恩師から聞いた「一書精読、多書通読」という言葉に心動かされたが、低学年には難しい。

委員 児童新刊案内「よむらび」は面だしがほしい。紹介本が減っても読みやすさが大切。また、「よむらび」で紹介された新刊本が図書館玄関に入って左手にあるなど、配置が分かるような工夫もほしい。今まで来ていただけなかった方に来ていただくのが、第二次子ども読書活動推進計画の目的ではないか。図書館はまず入るに敷居が高い、次に職員に聞くのが大変という印象である。

委員 保育園では計画的に本を購入しているようだが、どの保育園も予算は同じなのか。

保育園 どの保育園も予算はほぼ同じのはずである。

委員 以前、保育園にあった本が擦り切れて古かった印象がある。

- 児童館 同じ本に人気が集まるため、人気本の消耗が激しい。傷みがひどい場合は同じ本を新しく購入する場合もある。
- 教育長 リーフレットについては、予算折衝してカラー印刷にしてはどうか。新聞広告などでも、カラーのものに目が行くものだ。また、文字が多すぎるとなかなか読んでもらえないものである。
- 委員 カラー印刷はコストがかかる。単色にしてデザイン性のみで勝負する手もある。文字も減らし、訴えるべきことも精選して人目を引くものにしてはどうか。
- 教育長 中学校では、本を借りる時間がない。日課表を見るとやむを得ない気がする。
- 学校 中学校の図書館担当者もその点は憂慮している。中学生の図書館離れに対しては、イベントを含め、様々なアイデアで対応しようとしている。年度初めに新規購入する図書を中学生に選ばせるなどもその一つである。
- 教育長 豊川市の中学校では、子どもに本屋まで足を運ばせ、選んだ本のリストを提出させて、学校側がその中からさらに選んで新規購入する方法をとったところ、子どもの読書推進につながったという話がある。この取り組みが広がりつつあるという話も耳にする。
- 委員 本町の中学校でも同じような取り組みをしているところがあり、自分が選んだ本のみならず、友人が選んだものを借りるケースも増えたと聞いている。また、自分の本が選ばれなかった場合でも、どんな本が購入されたかの興味もあり、学校図書館に足を運んで本を借りていくケースもあるという。
- 学校 友人のお勧め本などは人気が高いものである。

(2) その他

- 事務局 議事なし。

4 連絡等

- ・ 東浦町子ども読書活動推進会議設置要綱について